



お名前をどうぞ！

医療機関には同姓や類似氏名を含む多くの患者様が登録されています。これまで、医療現場では、医療者が「〇〇さん」と呼びかけ患者様が「ハイ」と返事をするという方法で患者さんを確認してきましたが、病院側から「〇〇さんですね？」と聞く方法は、エラーが起こりやすいとされています。病院側・患者様側双方が「間違いないだろう」という思い込みのもと患者確認が進んでしまうことや、周りの雑音で自身の名前がはっきりと聞こえないことがあるといったことがその要因です。

患者様の取り違えを防ぐためには、「医療者が患者様にフルネームをたずね、患者様ご自分でフルネームを言っていただき患者確認をする」ことが効果的です。

私たちは、安全確保のため次のような場面でお名前をお聞きます。

- ・診察の場面
- ・注射の場面
- ・検査の場面
- ・処方箋や薬を受け取る場面
- ・リハビリや食事配膳場面



病棟では、スタッフステーション内のナースコール受信機に「同姓注意」と注意喚起を行い、フルネーム確認とともに何重にもエラ

ーを防ぐ対策を行っています。

また、入院患者様には手首に名前を記入したリストバンドを装着していただき患者確認を行っております。

このように正しく適切な患者確認を行い、患者誤認を防ぎ安全な医療が提供できるよう努めております。

皆さまも医療を受けるときには、ぜひ、医療者と一緒にフルネーム確認をお願いします。



お名前をどうぞ

大津 太郎です



医療安全管理委員・病棟師長

比嘉 絵里香

【ガラス越しの面会】

COVID-19 のパンデミックにおいて世間が混乱する中、当院も途切れることのない緊張感と隣り合わせの日々となりました。患者様の身体や生命の安全を確保するため、外部との面会制限は避けて通れない対策ではありましたが、ご入院中の患者様・ご親族様に於かれましては不安の尽きない日々であったと思います。

ある日、入院患者様の娘様(医師)は当日も自らの職場で感染症患者の診察をされていたため、私に伝言だけ残り、当院入院中の御父様との面会をお控えになりました。しかしながら永く先の見えない面会制限の中で患者様の様子が気になるのも事実、患者様ご自身も娘様に一目会いたい一心で玄関まで来られ、MSW として何とかお二人の面会を実現できないか、とっさの判断に迫られました。

正面玄関ホール内は除菌済でしたので玄関のガラス越しでの面会対応としました。娘様の携帯と私の PHS を繋いでガラス越しにお話をされ、患者様はうっすら涙を浮かべながら立って歩いて見せ、ガラス越しに娘様と手を合わせて励ましあい、笑顔と少しの涙のひと時となりました。

とっさの判断であったとはいえ、今思えば MSW としてこの方法が正しかったのか、心に寄り添えたのか、今でも答えは出ませんが、ガラス越しのこの距離こそが COVID-19 の成す弊害なのだ実感するとともに、それを超えても笑顔を交わしていこうとする“人”の強さを学びました。

その後、一部リモート面談が始まり、患者様が画面越しにご家族様の顔を撫でて涙されるシーンにもらい泣き、緊急事態宣言解除と共に面会が一部再開されご家族様の手を握って涙されるシーンに胸が熱くなる日々。「(患者様の)手が暖かかった」と言って帰って行かれるご家族様を見送りながら医療従事者として MSW として“今”何ができるだろう、と改めて考えさせられます。今できるベストを尽くし、一日も早く心静まる日が来ることを願います。



地域連携部 課長 上嶋 美由紀